

2025年6月18日
株式会社SVPジャパン

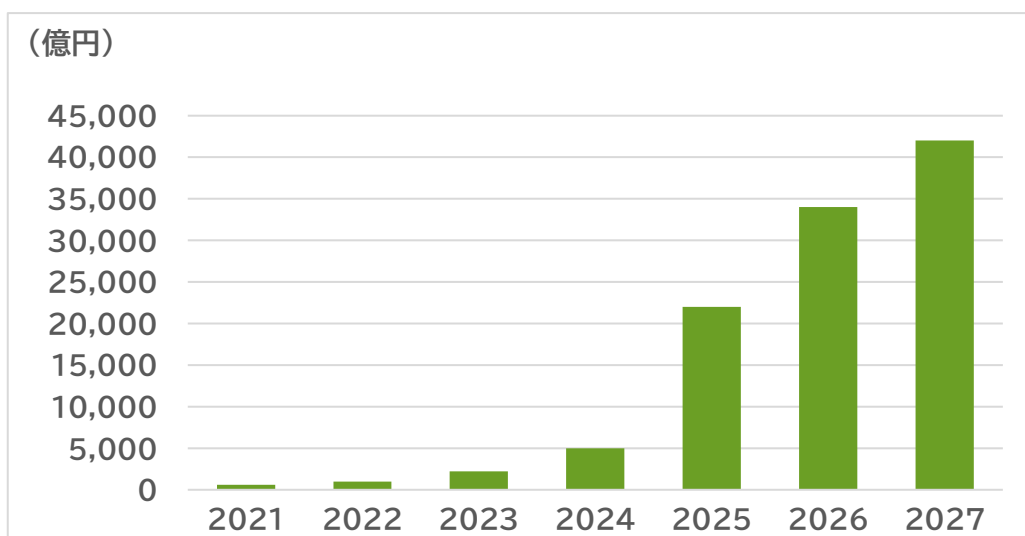
SVP注目市場分析 「バイオジェット燃料」を公開

～世界規模で拡大するSAF市場、最大の壁はコストの削減～



会員制マーケットリサーチサービスを提供している、株式会社SVPジャパン（本社：東京都中央区、代表取締役社長：橋本 雅、以下「SVPジャパン」）は、本日、SVP注目市場分析レポート「バイオジェット燃料-世界市場の現状と将来展望-」を、会員企業向けに公開いたしました。

■ バイオジェット燃料の世界市場



バイオジェット燃料は、バイオマスを原料とし、カーボンニュートラルの実現に寄与する持続可能な航空燃料（SAF：Sustainable Aviation Fuel）の一種である。従来の化石燃料と比較して、燃焼時のCO2排出量が大幅に削減できるうえ、既存の航空機や燃料供給インフラを変更することなく使用できる「ドロップイン燃料」として注目を集めている。2024年の市場規模（世界）は、前年比で2倍以上となる5,000億円に達したと推定され、地域別には欧州が60%、北米が30%、アジア太平洋が10%程度を占める。日本では、石油元売のコスモ石油、ENEOS、出光興産などが量産化に取り組んでおり、早期の国産化を目指している。今後は、政府による導入支援策や税制優遇、国内航空会社との連携強化を通じて、国産バイオジェット燃料の利用拡大が期待される。

■ バイオジェット燃料の市場概況

バイオジェット燃料市場は、2050年までに、カーボンニュートラルを目指す航空業界の国際的目標合意を背景に、急速な拡大を見せている。現在の世界的な使用率はジェット燃料全体の1%未満だが、欧米を中心に2030年までに10%のSAF利用を目指す動きが進展。日本でもANAやJALが参画するSAFの国産化を目指す有志団体「ACT FOR SKY」などの取り組みが進んでいる。最大の課題はコストであり、バイオジェット燃料は従来のジェット燃料の数倍に達する。生産規模の拡大や原料多様化、技術革新によるコスト削減が求められている。一方、日本市場では、伊藤忠商事によるNesteの燃料供給や、三井物産とLanzaJetのATJ技術連携など、商用化に向けた実用化が進む。国内市場の成長は、脱炭素化だけでなく、航空業界の国際競争力向上にも寄与すると期待されている。



■ 本レポートの構成

- I. 市場の定義
- II. 市場動向
- III. 市場規模・予測
- IV. マーケットシェア
- V. 参入企業の動向
- VI. 業界構造



←レポート全編を見る クリック

※本サービスのご利用は、
SVP会員様限定でございます。

■ 購読について/資料ダウンロード・お問い合わせ

本サービスのご利用は、SVP会員様限定でございます。

購読をご希望の場合、当社SVP会員になっていただきますと、定期的に配信する市場調査レポートを全てご購入いただけます。なお、SVP会員は、ビジネス調査に関する、クイックリサーチとプロジェクトリサーチもご利用いただけます。

資料請求

お問い合わせ



■ 次回のテーマ

7月のテーマは「産業用燃料電池」と「リチウムイオン電池電極材料」を予定しています。

～SVP注目市場分析レポート更新スケジュール…毎月第1・第3水曜日の発刊を予定～

[会社概要]

社名 : 株式会社SVPジャパン
代表取締役 : 橋本 雅
所在地 : 東京都中央区日本橋蛸殻町1-38-9 宮前ビル2F
設立年月日 : 1974年7月1日
事業内容 : 会員制のビジネス情報提供サービス
URL : <https://www.svpjapan.com/>

[本プレスリリースに関するお問い合わせ先]

株式会社SVPジャパン DX推進部 デジタルマーケティング課
info@svpjapan.com